

(電子メール施行)
農技第 2207号
令和6年3月14日

関係各位

兵庫県病虫害防除所長

令和5年度病虫害発生予察防除情報第10号を發表します。

スクミリンゴガイの越冬地域は、暖冬傾向により平年に比べて広域になると推定されます。越冬に成功する貝の割合が高くなることにより、今季の稲作において平年より広範囲で大きな被害の発生が予想されますので、耕うん等による防除対策についてご指導願います。

令和5年度病虫害発生予察防除情報第10号

スクミリンゴガイの防除対策

- | | |
|--------|--------------------|
| 1 対象作物 | イネ |
| 2 病虫害名 | スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) |
| 3 発生地域 | 県南部 (特に播磨地域と淡路地域) |

4 今後の予想

暖冬により、本種の越冬が可能な地域は、平年より広い範囲になると推定される (図1)。

5 本種の発生生態と被害

本種は水田内や水路等で越冬して、春季から活動を始めると水稻移植直後のイネを食害する (写真)。

6 防除対策

(1) 耕うん (物理的防除)

殻を破碎して殺貝するとともに、土中にいる貝を掘り起こし寒気にさらしてダメージを与える。表土を細かく破碎する耕うんが効果的であるため、田面を乾燥させ、トラクターの走行速度は時速1km程度の低速に、PTO回転速度は高速にする。本種は土中の浅いところで越冬するため、耕深は10cm程度でよい。

(2) ほ場の均平化

水稻移植後の被害回避として浅水管理がある。安定した効果を得るため、レーザーレベラーなどで田面の均平化を図る。田面が均平でない場合、水深が深いところに貝が集まって食害を受ける。

(3) その他

耕うんを実施したほ場においても、小さな貝は破碎できないことや入水時に成貝が侵入する可能性もあることから、薬剤防除や侵入防止などにより、移植直後の被害回避を図る。

(4) 注意事項

ア 除草目的であっても未発生ほ場へは故意に持ち込まない。なお、発生ほ場であっても故意の持ち込みは、スクミリンゴガイの密度上昇につながる行動であることから厳に慎む。

イ トラクターなどの農業機械に付着し、本種が他のほ場へ拡散する事例が報告されている。発生ほ場を含む複数ほ場で同一の機械を使用する場合、未発生ほ場から作業を始める。発生ほ場で使用した後は、よく洗浄し、他のほ場へ持ち込まないようにする。

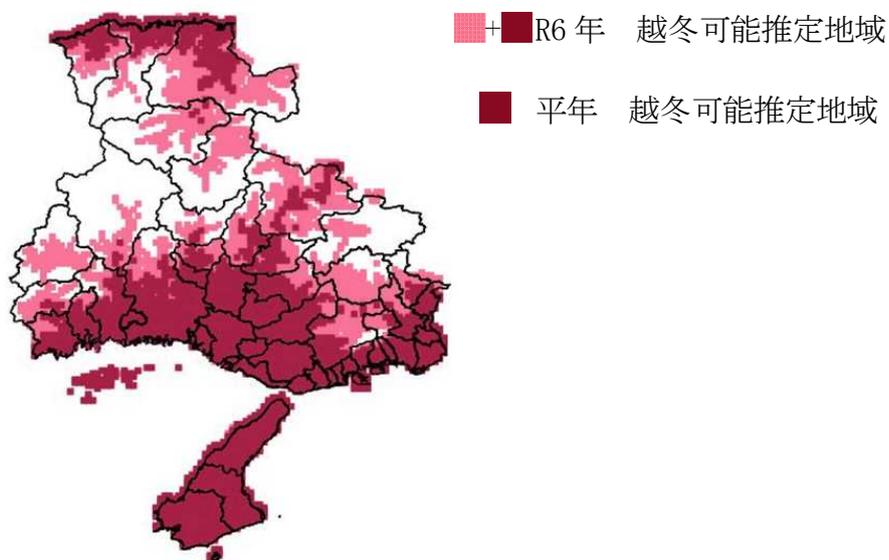


図1 低温期の気温から推定したスクミリンゴガイ越冬可能地域 (R6年)

メッシュ農業気象データ（日平均気温データ）を用いて小澤・牧野（1988）の温度条件により越冬可能地域を着色。

- + R6年：過去10年（H24～R3）における気象データから低温積算温度の予測値を用いて判定した。
- 平年：日平均気温の平年値データから低温積算温度を算出して判定した。



写真 スクミリンゴガイ（左）と卵塊（中央）と被害田（右）
被害田（右）：手前の部分が食害による欠株。

なお、耕うん、その他の防除対策や本種の詳しい生態は、次の資料も参照する。

- ・ 冬季耕うん

<https://youtu.be/aeppoxufEcQ>

- ・ 発生生態：

https://www.youtube.com/watch?v=oV6kC7_UaS0

- ・ 防除対策

病害虫・雑草防除指導指針の参考資料「3-3 スクミリンゴガイの生態と防除対策」

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/documents/shishinsukumiringogai.pdf>

* 兵庫県農薬情報システムは以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

* この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222